

## JR連合 第34回定期大会を開催



6月18日、京都市内において開催され、貨物鉄産労からは辻村委員長、橋爪書記長、鈴木教仁執行委員が出席し、今後の運動方針を満場一致で採択しました。

大会を代表しての荻山会長挨拶では、「最優先課題である安全確立」・「組織と労使関係」・「産業、労働政策課題」の大きく4点について述べられ、最後にJR産業が大転換期にあるとの問題認識を基調に置き、時間と効果を意識して新年度に積極果敢に臨む決意を力強く述べられました。

質疑応答で、貨物鉄産労を代表して発言に立った橋爪書記長は「共に働く仲間の死亡労災が続いており、改めて、安全における確認会話の重要性をグループ会社と共に深度化させ「全てのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」に向けて全力で取り組んでいく。政策課題では、2024年問題における「政策パッケージ」に対応するべく、コンテナ増備・駅構内再整備等の課題提起の他、アボコスト改定や貨物調整金について、ハードルの高い課題をJR連合と共に取り組んでいきたい。組織課題では今年に入り、九州地区本部で2名、東海地区本部で1名の組織拡大することができ改めて感謝申し上げる。JR連合は男女平等参画を進めており、貨物鉄産労にも女性組合員が少しずつではあるが増えてきているが、組織課題は山積しており、これを解決するには組織拡大をするしかなく、今後も鋭意取り組んでいく」と発言されました。